

# 左内や由利を育てた

## 実践の儒学者、

### 吉田東篁



吉田東篁肖像  
(福井市立郷土歴史博物館蔵)

**幕** 末維新期の福井藩は数多くの優秀な人材を輩出しました。藩教育の充実に力を尽くした儒学者、吉田東篁もその一人です。

東篁は、文化5（1808）年に福井藩の下級武士吉田隣紀の長男として、福井城下の桜の馬場で生まれました。幼名は金一、後に悌蔵と改めています。京都在住の儒学者である清田丹蔵の教えを受け、厳格な道徳主義と日常での実践を重視する崎門学（山崎闇斎を祖とする朱子学の一派）を修めました。その中で東篁は、学問とは実践を伴うものでなけ

年6月に藩校明道館を創設しました。明道館は「政道の基本」「士たる者の専務」を学ぶ文武教育の中心機関と位置づけられ、東篁はその助教役、訓導師として、自らの信念である実践の学を明道館で教授していきます。

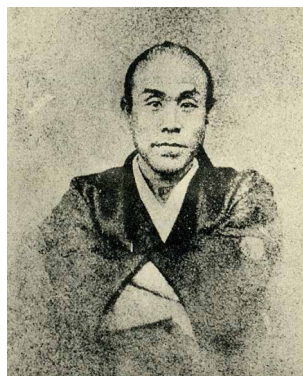
ればならないと考え、国のあり方や時事問題について積極的に発言していきます。

こうした東篁の姿勢に注目したのが、第16代福井藩主、松平春嶽でした。福井藩は天保3（1832）年に始まった学問所正義堂がわずか2年で閉鎖に追い込まれており、教育体制の確立が急務の課題となりました。そこで、藩主を継いだ春嶽は新たな学問所の創設を企図し、東篁をその取調掛に任じました。東篁は同じく取調掛に任じられた平本平学らと協力し、安政2（1855）

福井藩を代表する儒学者へと成長した東篁は、藩外にもその名が知られるようになります。藤田東湖（水戸藩士）や梅田雲浜（小浜藩士）、梁川星巖（漢詩人）など、尊王攘夷論を唱えて一世を風靡した学者・志士たちと親交を深めました。また、春嶽の政治顧問として活躍する横井小楠（熊本藩士）とも交流し、小楠を福井藩に招へいする際にはその実現に尽力したのです。さらに、後進の育成にも熱心であり、東篁の下で学んだ鈴木主税や橋本左内などは、幕末期の福井藩政をリードし、由利公正や杉田定一などは明治期の国政でも活躍しました。



橋本左内肖像 (福井市立郷土歴史博物館蔵)



由利公正肖像  
(福井市立郷土歴史博物館蔵)

福井藩が進めた人材育成の方針には、東篁の実践に即して学ぶという強い信念が色濃く反映されています。この東篁の信念は、福井藩の人々が幕末明治の表舞台へ飛び出していく基礎になったのです。

### 関連史料・ゆかりの地

#### 東篁先生之碑



足羽山の中にひっそりと建つ吉田東篁の石碑。明治8（1875）年5月2日に東篁が逝去したあと、門人たちが追慕のために建設しました。碑文には、学問は実践にあらざれば益なしと東篁が常に語っていたと記されています。

【住所】福井市足羽上町111周辺  
(福井鉄道商工会議所前駅より徒歩 25分)

参考資料等

福田源三郎編『越前人物志』思文閣  
『福井市史』通史編2近世 福井市

執筆・協力

福井市立郷土歴史博物館